

日本百街道紀行

街道とまちづくり

第57回

東海道

「藤枝の宝」東海道の歴史と文化を生かしたまちづくり

はじめに

藤枝市は、東京と名古屋の間、そして静岡県のほぼ中央に位置し、東名高速道路や新東名高速道路、国道1号藤枝バイパスなどが市内を東西に貫くとともに、富士山静岡空港にも近接し、陸と空に開けた広域交通アクセスが整

う、古来の交通の要衝である。

南北に長い地形を持ち、北部エリアの中山間地域では、全国的にも有名な朝比奈玉露をはじめとしたお茶やミカン、シイタケなどが盛んに

生産され、豊かな自然に恵まれた美しい景観が広がっている。また、南部エリアは、JR藤枝駅を中心に都市機能を集約した「スマート・コンパクトシティ」の形成に向け、民間活力を導入した再開発が進んでいる。

さらに、この中心市街地を核として、各地域の個性や特性を生かした多極型の拠点形成と拠点相互を、公共交通や人の交流で有機的につなぐ、独自の都市プラットフォーム「ふじえだ型コンパクト+ネットワーク」のまちづくりを進め、都会の便利さを感じながら、豊かな自然に触れられる多様な魅力を放つ、付加価値の高い「ほどよく都会、ほどよく田舎」の都市として、選ばれるまちを実現している。

ふじえだ
藤枝市長（静岡県）

きたむらしろうへい
北村正平

中世から受け継がれた街道の歴史

大宝元（701）年に大宝律令が制定されると、本市内には国の下の各郡の行政を担う役所として「志太郡衙（国指定史跡）」と「益頭郡衙」が置かれた。都と諸国を最短距離で結ぶ駅路（古代東海道）とは別に、郡衙や国衙を結ぶ郡衙経路とも呼ぶべき道が存在し、藤枝にも多くの役人や貴族などが往来したことが記録されている。郡衙経路の一部は、中世の東海道へと踏襲され、鎌倉時代には、すでに市内には交通集落の宿が形成されていたものと考えられている。

これらの前史は、江戸時代の宿場町の成立とにぎわいにもつながっており、徳川家康により宿駅

伝馬制が制定されると、慶長6（1601）年に「藤枝宿」、翌年には「岡部宿」の二つの宿場が成立した。

現代に受け継がれる宿場の魅力

東海道22番目の宿場町となる「藤枝宿」は、江戸から四十九里（約200km）の場所に位置し、海浜部に通じる田沼街道や、山間部にある高根白山神社に通じる高根街道など、東海道と海の道・山の道が交わる交通の結節点ともなっていた。宿場には、旅人だけでなく、魚や塩などの海産物や、お茶やシイタケなどの農産物など、多くの物資が集まる物流の拠点としてもにぎわっており、歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」には、大



江戸時代の旅の様子を現代に伝える歴史資料館「岡部宿大旅籠柏屋」



徳川家康鷹狩りの地「史跡田中城下屋敷」

きな荷物の取り継ぎをする問屋場の様子が描かれている。また、宿場の東には徳川家康が鷹狩りを楽しむために度々訪れていたことでも知られる「田中城」があり、藤枝宿は城下町としての機能も併せ持つ宿場町でもあった。

東海道21番目の宿場町「岡部宿」は、古くから難所として知られていた宇津ノ谷峠の西麓に位置し、規模は小さいながらも、旅人たちの峠越えを支える重要な宿場であった。宿場の中でも代表的な旅籠であった「大旅籠柏屋」が今も残り、当時の旅の様子や人々の暮らしぶりを体感できる歴史資料館として公開している。

街道文化を生かしたまちづくり

二つの宿場のにぎわいと人々の交流の歴史は、発展を続ける本市の礎であり、貴重な宝である。本市では、これら街道の歴史や文化

の磨き上げと活用による新たな価値と魅力、にぎわいの創出に向け、平成21年度に全国唯一の「街道・文化課」を設置しさまざまな取り組みを進めている。平成29年からは、藤枝宿、岡部宿を舞台に、地域の歴史や文化と芸術などを連携、融合させた小規模体験プログラム「みちゆかし」をスタート。また、令和元年には、東海道周辺の歴史や文化、グルメや観光スポットなどの情報を一元的に発信するウェブサイト「ふじえだ東海道まちあるき」を公開するなど、さまざまな切り口で、東海道の歴史や文化に触れる機会を創出し、「東海道」のブランド化を図っている。

広域による東海道のさらなるブランド化と街道観光の確立を目指す。



弥次さん喜多さんの様子を再現「岡部宿大旅籠柏屋」(内観)

し、令和2年には、静岡市と共同で「日本遺産」への登録申請を行っている。同年6月に「日本初『旅ブーム』を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅／滑稽本と浮世絵が描く旅のガイドブック(道中記)〜」として、両市にまたがる2峠8宿の東海道の歴史や文化が日本遺産に認定された。

この日本遺産認定は、街道観光の推進による交流人口の拡大に向けた大きな起爆剤であり、地域のアイデンティティーの醸



往時の面影を残す「東海道松並木(岡部町内谷地区)」

成、地域ブランドの創出にもつながる大変栄誉なことであると考えている。今後も、街道文化を守り、育みながら、日本遺産を核としたまちの魅力を継続的に発信し、発展的な事業展開を図ることで、まちのにぎわいを創り続けていく。

東海道

一口メモ

何世代もの道が行き交う東海道 駿河路



東海道は、江戸から京までの126里余(約495.5km)に、京街道の4次(伏見、淀、枚方、守口)を加え、57の宿でつなぐ日本の大動脈。古代官道の道筋をほぼ踏襲しており、その後、源頼朝が本拠の鎌倉と京を結ぶ要路として整備。さらに、天正18年の小田原攻めの際には、豊臣秀吉によって整備された。

関ヶ原の戦いに勝利し江戸幕府を開いた徳川家康は、江戸を中心に五街道を定め、宿駅制度の充実を図って近世の東海道を完成させた。

古来、交通の要衝である藤枝市には、東海道21番目の岡部宿と22番目の藤枝宿があり、往時の街道の面影を伝えている。

企画協力：全国街道交流会議「街道交流首長会」